



「防災GO®」ゲームで避難ルート学ぶアプリを開発

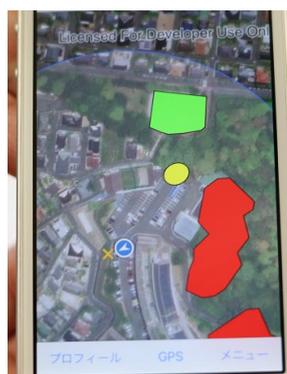
楽しみながらリスク把握で効率的避難へ

2021年2月19日（金）



地震や津波、大雨などの大規模災害の発生時、**命を守るため正しい避難場所や避難経路を把握することは不可欠です。**しかし、自分の住む地域にどんな危険箇所があるか？ どういう経路で避難するべきなのか？ 実際に把握している人は多くありません。自治体が設定するハザードマップについても、多くの人はその具体的な内容を把握していません。福岡工業大学社会環境学科の上杉研究室と森山研究室は株式会社 CTI グランドプランニングとともに、**位置情報データと地域の防災情報を組み合わせたアプリ「防災GO®」を開発しました。**スマホの地図を見ながら身の周りの危険箇所や避難所などを実際に見て回り、防災に関するクイズを解きながら平常時から身近な災害リスクや避難経路などについて関心を持ってもらおうというゲームアプリです。取り組みに是非ご注目下さい。

地域の災害リスク箇所、避難所などを歩いて把握



「防災GO®」のゲーム画面には各地域で避難所に指定されている建物のほか、土砂災害が発生しそうな危険箇所などマップに反映されています。実際に歩いてこうした場所まで行くと、その場所に因んだ防災に関するクイズが出題されます。さらに、仮定の災害を発生させて、避難場所まで実際にたどり着けるか、シミュレーションする機能も開発しています。ゲーム感覚で実際に避難所や危険箇所を回ることで、適切な避難経路を自分の足で実感してもらうだけでなく住んでいる地域をより詳しく理解してもらい、災害時の判断力を強化します。

浸水想定シミュレーション・「逃げログ」解析も



実際に現地に行き、アプリを使用して洪水などのシミュレーションをすることで、今自分がいる場所が実際にどれくらいの範囲まで浸水するのか？疑似体験しながら確かめることもできます。ハザードマップを見るだけではわからない、災害の想定範囲をリアルに感じることもつながります。避難行動を分析してスコア化する「逃げログ」の機能も実装を目指しています。

チームで取り組んでリスク把握



スポットに端末が入ると回数とポイントがユーザーに付与され蓄積される

スポットに入ると、そのスポットの情報の閲覧やクイズへの回答ができる

ユーザ情報や、スポットで獲得した回数・ポイントでランキングが表示される

ゲームをプレイした回数や、各地のスポットでクイズに正解した数に合わせてプレイヤーやチームにポイントが付与されます。アプリを使うことでゲーム性を持って楽しみながら防災に取り組むことが出来るため、学校や地域のコミュニティで行う防災訓練でも活用できます。将来は自治体と連携してゲームに合わせてポイントを付与するなどの活用をすることで、地域の防災意識を高めることも可能です。



福岡工業大学 社会環境学科

上杉昌也 准教授

専門分野：都市地理学, 都市計画, 空間情報科学

地図、位置情報データを用いた「防災 GO®」をはじめとして、都市の防災や居住地域構造の分析、近隣居住環境の改善に関する研究に取り組んでいます。



福岡工業大学 社会環境学科

森山聡之 教授

専門分野：水工水理学 研究キーワード：防災、流域、環境

GISを用いたハザードマップの制作や分散型多目的市民ダム、センサーを用いた川の流量モニタリングなどの研究に取り組んでいます。

